

九州山地の哺乳類糞塊から採取された糞虫について

免田 隆大^{1, 3)}, 安田 雅俊^{2, 3)}¹⁾熊本県文化企画課松橋収蔵庫, ²⁾森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ, ³⁾熊本野生生物研究会

Dung beetles collected from feces of the mammals in Kyushu Mountains

Takahiro Menda^{1, 3)}, Masatoshi Yasuda^{2, 3)}¹⁾Matsubase storehouse, Culture Promotion Division, Kumamoto Prefectural Government²⁾Forest Zoology Laboratory, Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute³⁾Kumamoto Wildlife Society

はじめに

日本産大型草食獣の糞の分解消失に糞虫が及ぼす影響については、ニホンジカ *Cervus nippon* を対象に、密度推定の精度向上を図る目的で行われてきた（岩本ほか 2000；池田・岩本 2004）。しかし、ニホンカモシカ *Capricornis crispus* を対象とした同様な研究報告はほとんどなく、ニホンカモシカの糞を利用する糞虫についての情報は蓄積されていない。このたび、九州山地においてニホンカモシカを含む哺乳類の糞塊から複数の糞虫が採取されたので報告する。

方 法

2011年8月4日～7日、熊本県上益城郡山都町内大臣において2011年度熊本県カモシカ特別調査が実施された。2011年8月6日、調査地「中腹」の方形区CH-A周辺（国有林1054林班い小班、北緯131.014度、東経132.584度、標高770～850m）において、筆者らは2カ所の糞塊（糞塊A、B）から複数の糞虫を採取した。調査地の植生はツガ *Tsuga sieboldii*、イヌシデ *Carpinus tschonoskii* を優占種とする約130年生の天然林であった。糞塊Aは斜面中腹で発見された糞粒数200粒のニホンカモシカの新糞（上記の調査における糞塊の整理番号CH-A-3；大きさ30cm×20cm）であった。糞塊Bは尾根で発見された軟便状の糞塊（整理番号CH-A-1；大きさ15cm×15cm）で、動物種は不明であった。

また、2011年9月14日、糞塊Bと同じ地点において、筆者らにより種不明ではあるが形状からニホンカモシカ以外の糞と判断された新糞（糞塊C）からも複数の糞虫を採取した。

結果と考察

糞塊から採集されたコガネムシ類および個体数を表1および図1に示す（熊本県文化企画課松橋収蔵庫所蔵、標本番号NB15-002039～002040, NB15-002081～NB15-002095）。

池田ほか（2002）は、福岡県の標高580～640mの森林内においてニホンジカの糞粒の消失実験を行い、糞の分解消失に関係する8種の糞虫を報告している。今回3つの糞塊から採取された5種の糞虫のうち3種は、池田ほか（2002）が報告した糞虫と共通していた（表1）。

3つの糞塊から得られた糞虫の種は異なっていたが、サンプル数が少ないため種組成の比較をすることはできなかった。今後、さらにサンプル数を増やすことで、カモシカの糞の分解者を特定することができると考えられる。

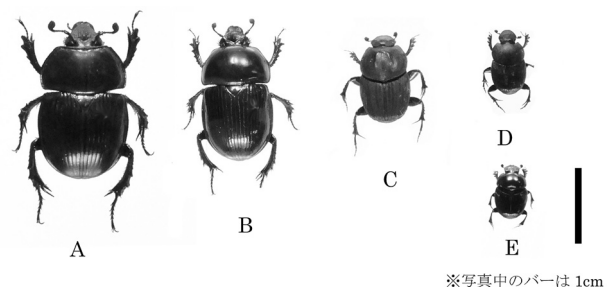


図1 糞塊から採集されたコガネムシ類

- A：オオセンチコガネ
B：センチコガネ
C：ツノコガネ
D：クロマルエンマコガネ
E：エンマコガネ属の一種

表1 九州山地の哺乳類糞塊から採取された糞虫と池田ほか(2002)において捕獲された糞虫の比較. 表中の数字は個体数を指す.

| | 池田 ほか(2002) | 本研究 | | |
|------------|-------------|------|------|------|
| | ニホンジカ糞 | 糞塊 A | 糞塊 B | 糞塊 C |
| オオセンチコガネ | 128 | 1 | | 9 |
| センチコガネ | 2 | | 9 | 5 |
| クロオビマグソコガネ | 66 | | | |
| チャグロマグソコガネ | 61 | | | |
| フトカドエンマコガネ | 23 | | | |
| マルツヤマグソコガネ | 5 | | | |
| ミゾムネマグソコガネ | 1 | | | |
| ツノコガネ | 1 | | | 1 |
| クロマルエンマコガネ | | 1 | | |
| エンマコガネ属の一種 | | 1 | | |

引用文献

池田浩一・岩本俊孝. 2004. 糞粒法を利用したシカ個体数推定の現状と問題点. 哺乳類科学, 44 : 81-86.
 池田浩一・野田 亮・大長光純. 2002. シカ糞の消失と糞の分解消失に及ぼす糞虫の影響. 日本林学会誌, 84 : 255-261.
 岩本俊孝・坂田拓司・中園敏之・歌岡宏信・池田浩一・西下勇樹・常田邦彦・土肥昭夫. 2000. 糞粒法による

シカ密度推定式の改良. 哺乳類科学, 40 : 1-17.
 川井信矢・堀 繁久・河原正和・稲垣政志 (編著). 2005. 日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群. 昆虫文献 六本脚.
 三橋 淳. 2003. 3. 4. 4. 清掃昆虫. 昆虫学大辞典. p.1014-1018. 朝倉書店.
 落合啓二. 1997. カモシカ生息頭数既知の場所における区画法の精度検討. 哺乳類科学, 36 : 175-185.

受付日：2011年11月28日 受理日：2012年4月27日

連絡先：免田隆大
 〒861-1102 熊本県合志市須屋1471-15
 電子メール menmewhite@yahoo.co.jp